

病院の実力

2018総合編

読売新聞医療部【編】

腰・首の痛み、障害に悩む方に
脊椎脊髄病治療

広告特集

2018年2月6日発売
「病院の実力」に掲載

信頼できる病院選びの決定版 YOMIURI SPECIAL 111
...648円

知っておきたい最新データ

5大がん

肺・胃・大腸・肝臓・乳
婦人科がん/食道がん/血液がん

脳腫瘍/腰痛/
形成外科
スポーツ外傷/血管外科/痔

脳卒中/大人の心臓病

「メス」のリスク
眼科医が見逃しやすい目の異常
台湾で卵子提供
腰痛に負けない

「インサニティ」
中井美穂、林家木久扇
ストーマ経験 喉頭がん

独自のアンケート実施!

掲載データ
6266
病院

病院の実力

読売新聞医療部編

読売新聞社



おおみや整形外科

〒824-0031 福岡県行橋市西宮市2-2-30 TEL.0930-28-0038
<http://omiyaclinic.com/>

医療の地域間格差を
痛感し、福岡・行橋の
地に開業する

おおみや整形外科は、北九州市立医療センターで整形外科脊椎外科部長として5年間勤務していた大宮克弘院長が2004年11月、福岡県行橋市に開院した。設立の理由について大宮院長はこう話す。

「北九州・小倉から大分・別府まで約100キロの間におよそ20万人の方が住んでいますが、以前は本格的な脊椎外科のある病院はありませんでした。前職（北九州医療センター勤務）では、遠く離れた山間部から腰の痛みに耐え、何時間もかけてなんとか小倉の病院までたどり着いたといった患者さんもかなりおられ、医療の地域間格差を痛感しました。都市部の基幹病院で患者さんが来るのを待つのではなく、地方であっても都市部の大きな病院と同等以上の高度な医療を提供したいとの想いから、行橋の地を選び、当院を開設しました」

来院患者の約6割は65歳以上の高齢者のため、軽い症状の方から重症患者まで、症状の程度は様々だ。

「当院では一人ひとりの患者

小さな病院ならではの特色を生かし、患者に寄り添った質の高い医療を提供

福岡県のJR行橋駅前にある「おおみや整形外科」(19床)は、整形外科領域のなかで脊椎外科、関節外科を専門とする施設。開院以来、「都市部の病院と同等以上の高度な医療を地方で提供すること」、「人生やその背景までも包み込んであげられるような医療」を信条に、基幹病院などの大病院にはない、小さな病院ならではの特色を生かして、一人ひとりの患者に真摯に寄り添った最善の治療の提供に努めている。

院長
大宮 克弘

おおみやかつひろ／
島根医科大学医学部
卒業。九州大学医学部
整形外科入局。九州大
学医学部附属病院をは
じめ福岡市民病院、国
立がんセンター中央病
院、北九州市立医療セ
ンター整形外科脊椎部
長など勤務。平成16
年おおみや整形外科
開院。日本整形外科学
会認定整形外科専門
医。日本脊椎脊髄学会
所属など。



の話の時間をかけてゆっくりと聞くことができ、じっくりと耳を傾けることができます。痛みを訴える患者さんが必要とあらば、その日に手術を行うことも休日に行うこともあります。規模が小さいからこそ、患者さんとの距離が近く、小回りがきいて自由度の高い医療を行えるのです」と、大宮院長は胸を張る。

患者の症状、ライフスタイルなどに応じ、最善の治療を目指す

腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアなど脊椎全般の治療は、診察から手術、アフターケアに至るまで、すべて大宮院長が自ら手がけている。一方、膝や股関節などの関節手術については、全国の大病院から医師が訪れており整形外科の専門医に手術を委ねている。

脊椎の治療では、まず、神経ブロックなどの保存的治療を行う。それでも痛みが改善されない場合、手術を検討することになる。

脊椎脊髄病手術実績 (2017年1月～12月)	
椎間板ヘルニア	42件
内視鏡による椎間板摘出手術	42件
腰部脊柱管狭窄症	162件
椎弓切除、椎弓形成術 脊椎固定術	87件 75件
その他	20件
手術総数	224件

HOSPITAL DATA



おおみや整形外科

福岡県行橋市西宮市2-2-30
TEL.0930-28-0038
FAX.0930-28-0039
http://omiyaclinic.com/

■院長／大宮 克弘
■診療科目／整形外科・リハビリテーション科・内科・リウマチ科

「手術するかを最終的に判断されるのは患者さんご本人ですが、ライフスタイルやQOL（生活の質）向上について自身がどう考えているかなどを考慮しながら、その方にとってどんな治療が最もいいのかを提案していきます」と大宮院長。院内には先進機器が揃い、椎弓形成術や椎間板摘出術、固定術など顕微鏡や内視鏡を使った低侵襲手術など、症例に応じた様々なアプローチが可能だ。大宮院長がすべての手術を執刀。脊椎脊髄の手術数は、年間226件（2017年）にのぼる。

地方の小さな病院だからできること

最近では80代以上の患者が年々増えている。また、他の病院で長年治療を続けたものによくならず、最後にすぎる思いで来院する患者も2割ほど

いるという。大宮院長がこだわるのは、自分の目でよく見て診断し、自分の手で手術を行い、アフターケアまでしっかりすること。それが真の意味で患者さんに寄り添うということ、と強調する。

「患者さんは理屈ではなく、医師の病気を治したいという真摯な姿勢や情熱を全身で感じとるものです。小さな病院の特色を生かし、事務的、形式的な対応ではなく、最も近い場所での患者さんの声に耳をよく傾け、どんな訴えにも決して背を向けることはしません。地方にある小さな病院だからこそできることを大切に、今後も質の高い医療を提供し続けることで地域に貢献していきたいと思っています」と大宮院長は最善の医療を提供するために日々努力している。